

## I L Cから想定される効果と大船渡市が目指すべき姿について

既に公表している **港湾・物流・道路分野**を例にとって

当市では、平成 30 年度に他分野に先駆けて、I L C誘致・実現に伴う港湾・物流・道路に係る必要な取組をアクションプラン（「大船渡港の活用等プラン」）として取りまとめました。残る分野のアクションプラン検討に当たり「想定している効果」と「アクションプラン」の関係を示すために、事例として港湾・物流・道路分野での関係を例示します。

I L Cから「想定される効果」もI L Cからの「距離」や「時期」に大きく左右されます。「大船渡市で起こる効果」を的確に予想し、「実現したいすがた」に向けて課題解決を図ることが必要となります。

**ILC 稼動  
(13 年後)****【解説②】**

一般的に認識されているILCの効果の多くは稼動後のものです

**【解説①】**

現実として、I L C近接地でないと起こりえない効果はあります

**【解説③】**

I L Cから距離が離れるほど、波及は限定されますが、取り組み方によって拡げること可能です

**【解説④】**

ILC 稼動前から大船渡市において大きな変化が現れることが想定されます

**準備期・建設期は大船渡港  
周辺の道路・港湾の機能  
強化が内陆よりも先行して  
進みます。****大船渡市・気仙地域で実現したいすがた(港湾・物流・道路分野)**

- ・港湾を拠点とした多機能な物流ハブの形成
- ・大船渡港から ILC 建設候補地までの輸送ルート最適化

**実現に向けた課題(港湾・物流・道路分野)**

- ・大船渡港の港湾としての優位性、I L C関連資機材荷揚げの実現可能性の確認
- ・大型機器の輸送に当たり、建設候補地への最適な輸送ルートの確認
- ・輸送ルート上の大型車通行困難箇所抽出及び対応策の検討
- ・港湾の有効活用、物流ハブ形成に当たり、行政としての効果的な支援

左図のように、I L C実験施設・研究キャンパスから 30～50km 程度離れる当市に想定される効果は、I L C近傍のまちに起こる効果とは異なります。アクションプランの検討では「大船渡に起こることがらをどう受け止めるか」、「I L C近傍に起こることがらにどのように攻め込んで大船渡の市場に変えていくか」という発想で検討を行うことが必要となります。

こうした認識を踏まえて、「大船渡港の活用等プラン」では下記の取り組みをアクションプランとして位置づけています。

**「大船渡港の活用等プラン」(平成 31 年 2 月策定)**

○「I L Cと共生するまちづくりビジョン」のアクションプランの第 1 弾として、大船渡港からの荷揚げ、その背後地における検査・組立・保管など物流ハブ建設地としての利活用、建設候補地までの物流ネットワークの構築・強化を図るため、その可能性をあらゆる角度から検討することにより、港の利活用を通じて地域経済の発展に資する実践的な計画として策定しました。

○大船渡港から I L C建設候補地までのルートの港湾機能や道路機能を検証することにより、実現可能性や実現に向けて必要な方策を検討しました。

○検討から、当市及び気仙地域で実現したいすがた（物流ハブの形成と輸送ルートの最適化）の形成に向けて、ビジョンに掲げる将来像を具現化するためのアクションプラン（行動計画）を策定しました。（右表参照）

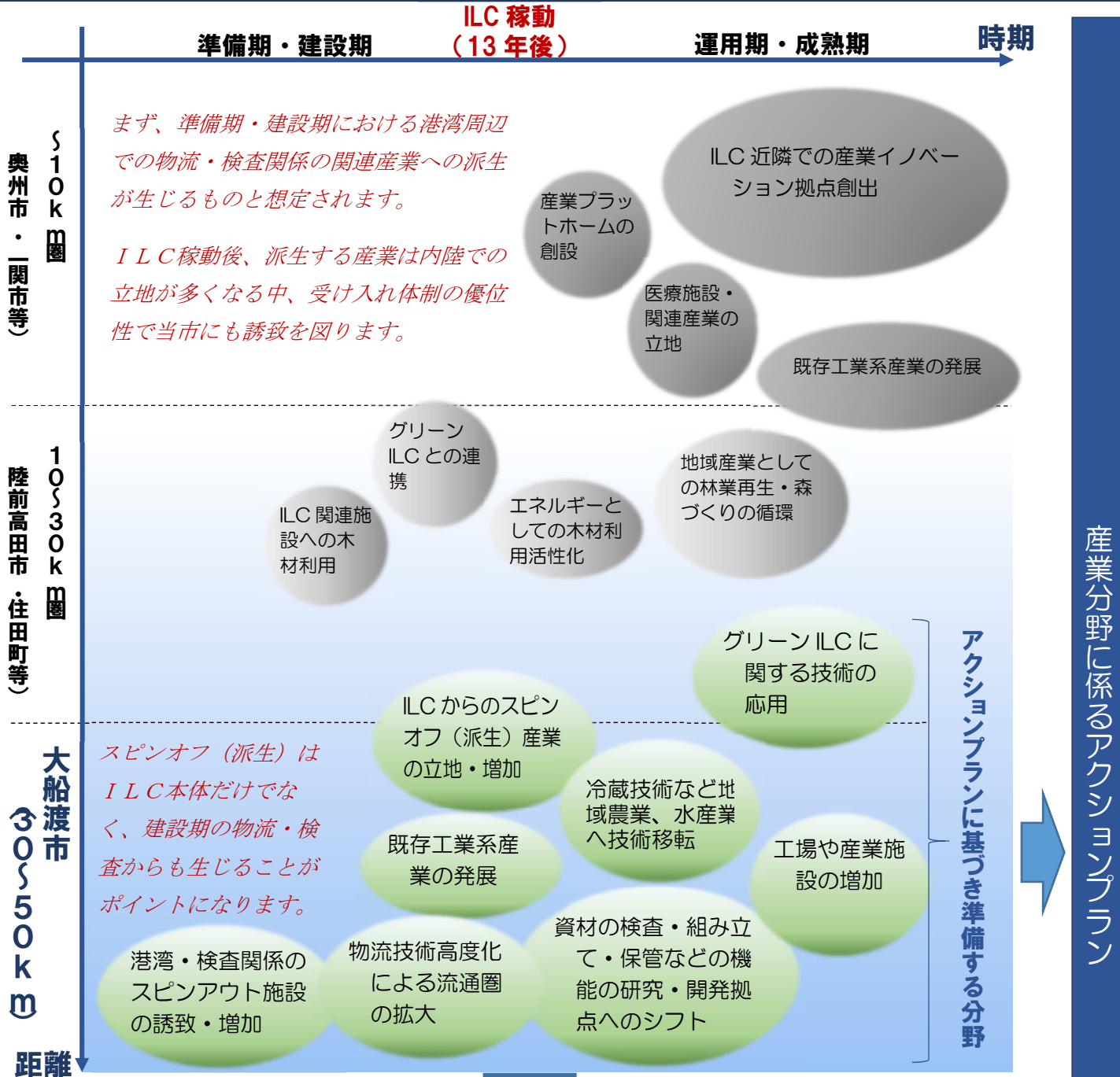
（右表をはじめとする「大船渡港の活用等プラン」は大船渡市の公式ホームページにおいて公開）

| No.                                            | 事業名                     | 事業概要<br>(具体的な取組)                                             | 実施<br>主体         | 取組期間                   |                        |                        |
|------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
|                                                |                         |                                                              |                  | 準備期<br>2019～<br>2022 年 | 建設期<br>2023～<br>2031 年 | 運用期・成熟期<br>2032～2051 年 |
| 将来像 1 県内随一の港湾機能を多機能な物流ハブとして活用（港湾機能の充実・物流ハブの設置） |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| (1) ILC関連資機材の荷揚げ地の形成                           |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| 1                                              | 大船渡港港湾整備事業負担金事業（継続）     | 岩手県が実施する港湾整備（防波堤の整備・臨港道路の改良など）への負担金事業                        | 市                |                        |                        |                        |
| 2                                              | 大船渡港港湾施設改良・整備要望活動事業（継続） | 永浜・山口地区等大船渡港港湾施設に係る改良・整備を促進するための県に対する要望活動                    | 市<br>民間          |                        |                        |                        |
| 3                                              | ポートセールス推進事業（継続）         | ILC 資機材等の荷揚げや物流ハブ建設を促進するため、東北 ILC 推進協議会等 ILC 関係者・企業等に対する訪問活動 | 市<br>民間          |                        |                        |                        |
| (2) 物流ハブの形成                                    |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| 3                                              | ポートセールス推進事業（再掲）         | ILC 資機材等の荷揚げや物流ハブ建設を促進するため、東北 ILC 推進協議会等 ILC 関係者・企業等に対する訪問活動 | 市<br>民間          |                        |                        |                        |
| 4                                              | 物流ハブ形成事業（新規）            | 物流ハブの形成を目指し、検査・組立・保管等施設整備や拠点化等に係る可能性の調査・研究                   | 県<br>市<br>民間     |                        |                        |                        |
| 5                                              | 共同利用コンテナ用上屋運営管理事業（継続）   | コンテナ貨物用一時保管場所として設置した上屋倉庫に係る施設の維持管理                           | 市                |                        |                        |                        |
| 将来像 2 輸送ルートの最適化に向けた取組（道路ネットワークの最適化）            |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| (1) 輸送ルート全体の最適化                                |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| 6                                              | 国道等改良・整備要望活動事業（継続）      | 国所管の道路・橋梁・トンネル等に係る改良・整備を促進するための国に対する要望活動                     | 2 市<br>1 町<br>民間 |                        |                        |                        |
| 7                                              | 県道等改良・整備要望活動事業（継続）      | 県所管の道路・橋梁・トンネル等に係る改良・整備を促進するための県に対する要望活動                     | 2 市<br>1 町<br>民間 |                        |                        |                        |
| 8                                              | 市道等改良・整備事業（継続）          | 市所管の道路・橋梁・トンネル等の改良・整備                                        | 市<br>民間          |                        |                        |                        |
| 将来像 3 物流ハブの将来的な有効活用                            |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| (1) ポートセールスによる多業種・多角的な物流ハブの形成                  |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| 3                                              | ポートセールス推進事業（再掲）         | ILC 資機材等の荷揚げや物流ハブ建設を促進するため、東北 ILC 推進協議会等 ILC 関係者・企業等に対する訪問活動 | 市<br>民間          |                        |                        |                        |
| (2) 研究・開発拠点機能へのシフトによる持続的な有効活用                  |                         |                                                              |                  |                        |                        |                        |
| 9                                              | 物流ハブ利活用促進事業（新規）         | 物流ハブ施設における研究・開発等インキュベーション施設としての活用に係る研究・検討                    | 県<br>市<br>民間     |                        |                        |                        |

：取組期間

：状況に応じて取組継続

**産業分野** (想定される効果・めざす姿・課題)



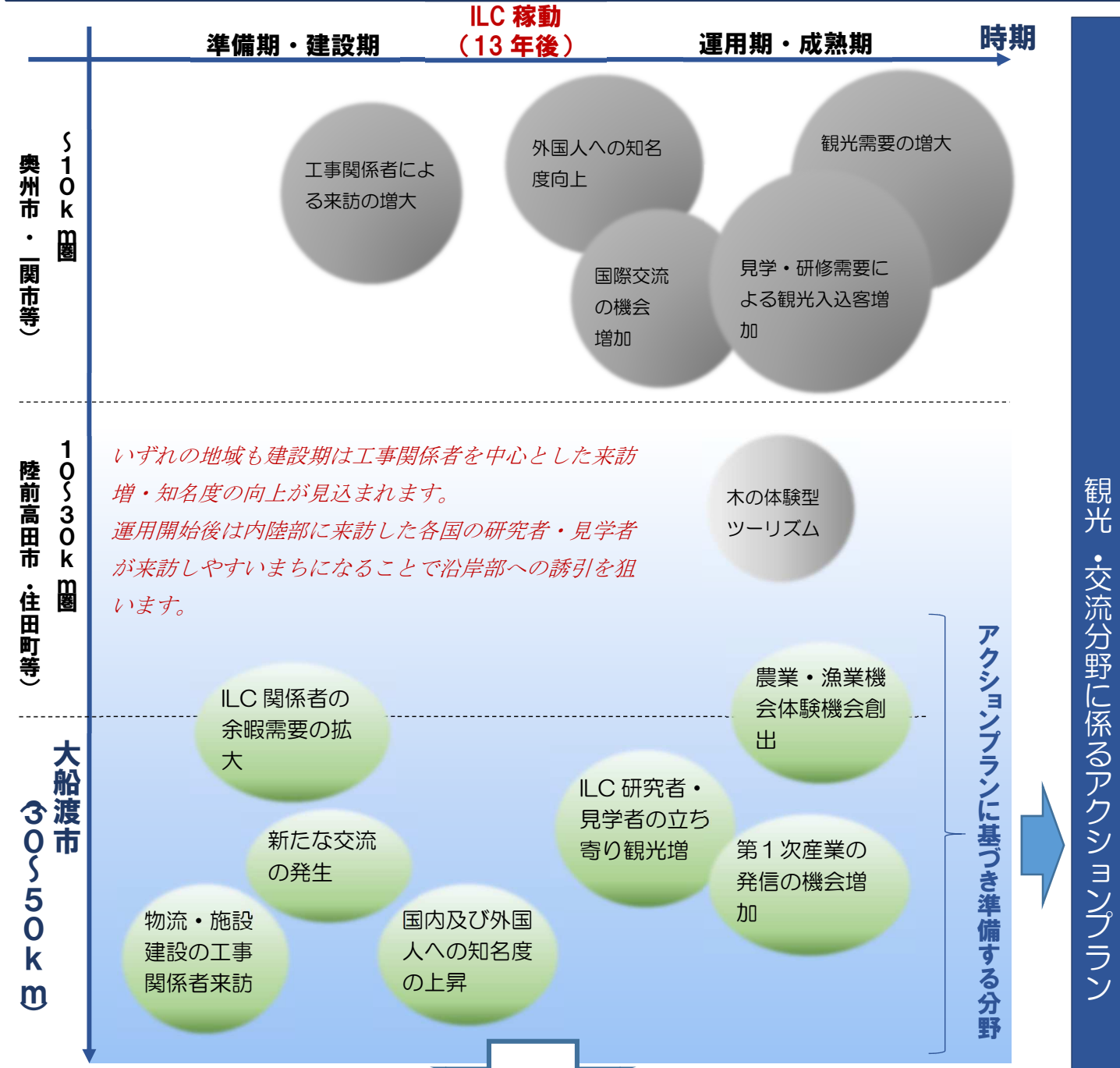
**大船渡市・気仙地域で実現したいすがた(産業分野)**

- ILCから新たな企業が派生する際に選ばれやすい都市
- 地域産業(農業・水産業・商工業等)が高度化し、製品の競争力が高い都市

**実現に向けた課題(産業分野)**

- 建設期の大船渡港での物流・検査機能からの派生を受け止める仕組みづくり(例:新たに起業する際に、場所、起業相談、法務・会計支援などをワンストップで行うなど)
- 地域産業とILC及び物流・検査とのつながり、イノベーションを生む組織づくりや議論の継続

**観光・交流分野** (想定される効果・めざす姿・課題)



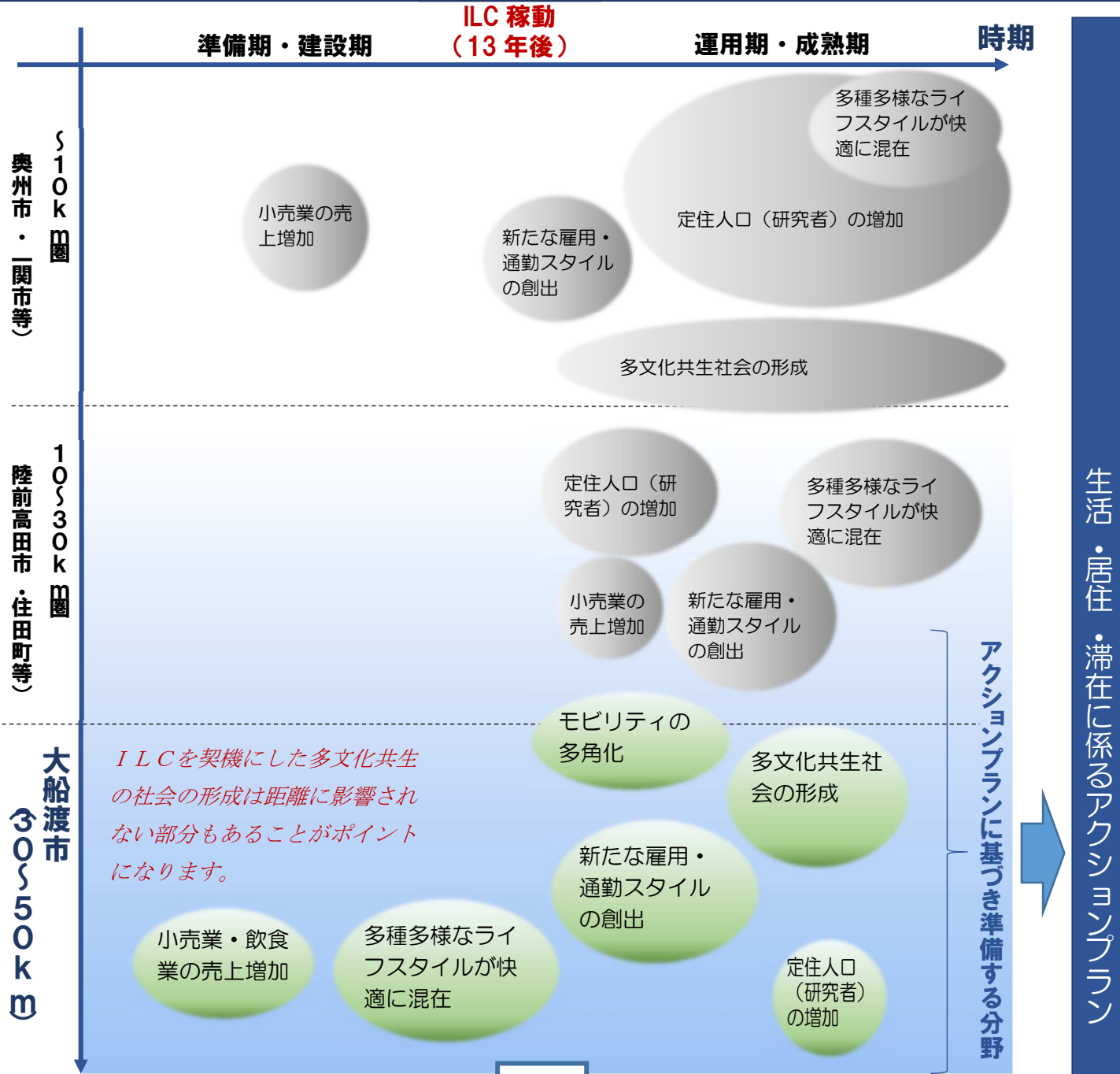
**大船渡市・気仙地域で実現したいすがた(観光・交流分野)**

- ILC滞在者・見学者のエクスカーション(小旅行・体験活動)を呼び込むまち
- ILCに関わる人々のみならず「ILCに近いまち」のイメージの定着したまち

**実現に向けた課題(観光・交流分野)**

- 「沿岸部の魅力」、「沿岸部に行くなら大船渡」をイメージ付けるプロモーションの実施
- 内陸部と沿岸部の観光交流等を活発にするモビリティ、サービスの連続性の形成(例:同じキャッシュレス決済でILC周辺や平泉と当市も同じようにサービスを受けられるようになっている、など)

**生活・居住・滞在分野** (想定される効果・めざす姿・課題)



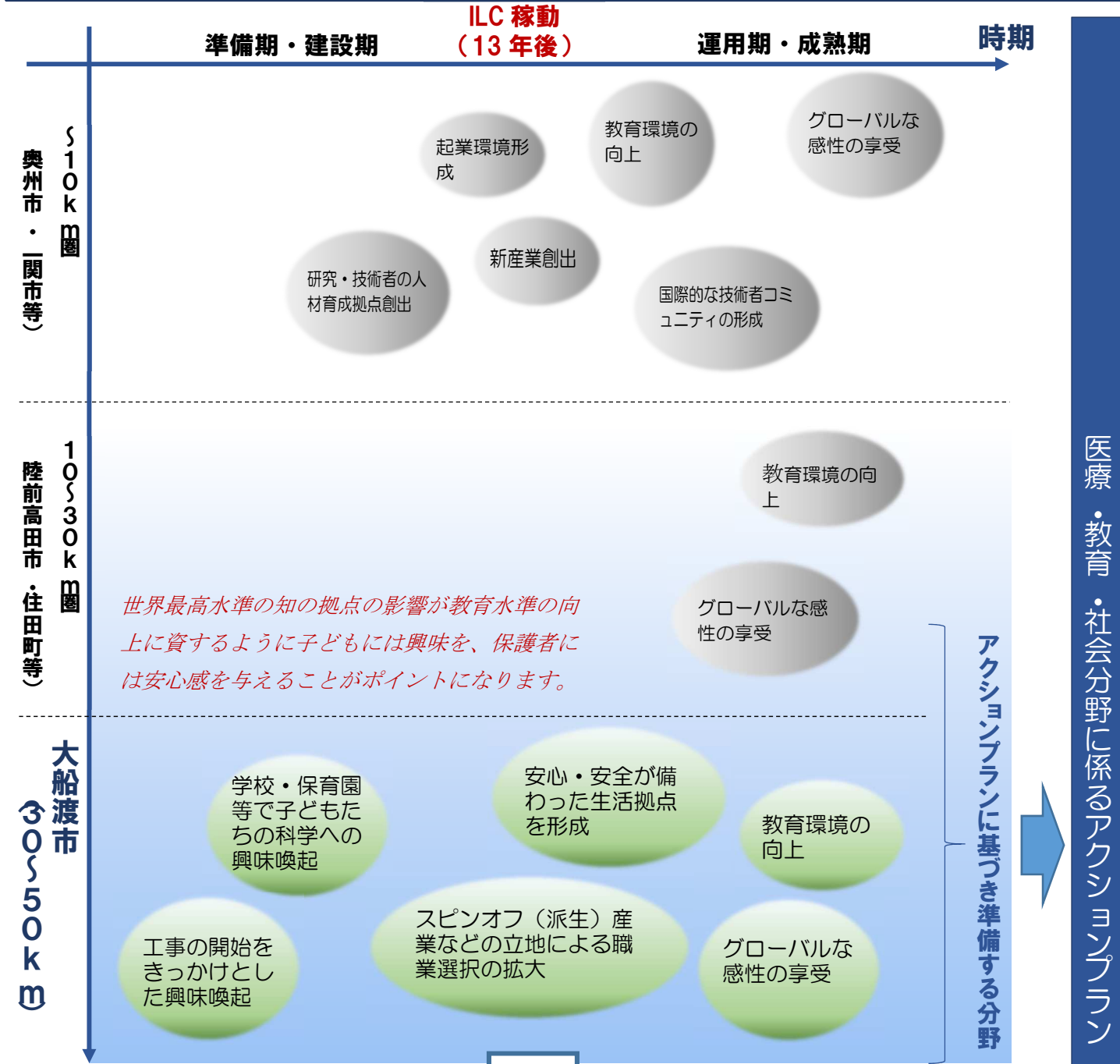
**大船渡市・気仙地域で実現したいすがた (生活・居住・滞在分野)**

- ・多文化共生社会 (多様な出身の人々が過ごしやすい、関わりやすいまち)
- ・沿岸地域の住み良さを認識されているまち

**実現に向けた課題 (生活・居住・滞在分野)**

- ・買い物を始め、生活の様々な局面で指差しも含めて英語でのコミュニケーションが容易であるなど、来訪者のみならず海外からの研修生も含めて住みやすいまちの形成
- ・空き家・空き地対策と連動した定住や滞在に適した物件情報等のストックと提供

**医療・教育・社会分野** (想定される効果・めざす姿・課題)



**大船渡市・気仙地域で実現したいすがた (医療・教育・社会分野)**

- ・科学や教育に対する関心・興味が高い教育都市
- ・グローバルに活躍する人材を輩出し、将来的に地元回帰できる環境を備えたまち

**実現に向けた課題 (医療・教育・社会分野)**

- ・子どもの科学への興味を喚起するきっかけづくり
- ・高等教育への就学支援とUターンを組み合わせた施策の検討
- ・「郷土出身者が科学分野で世界最先端に携わっている」というロールモデルの育成